

花言

田文一(廿七)

花言

新 814-6 濟

俳諧資料カード

年代 文政11年

編者 (筆者) 奇談

書名 花言

備考

(下垣内 蔵)

明成文



四方の國々小祖翁の塚城とて志るにせ線の
もと二毛少紙うゝる世多うりるわうは活悉江の
奇淵叟いなり小肖像をまけり毛屋のうらの照し
流りに橋本紙うゝるこれうさうり小急市舎を
いつくせ紙初うゝ五丈七道よういらも急もるう
きくさく紙とうりつめまて披露せう紙とや此
ぬのいきをうたりる又此菴の秋孔會紙松風とてふ
さへそのうと二柳翁の紙りれを柀のいとすら未永く

尾張一入

らのかいぢり 魚肥

る方の用さか

里の魚を買入 出川

きりち引扱ま

ちんちんま 経路

村のりすんせ

西を北のちり 希路

約うぬのちんせ

ちんちんまの 苗留

茶葉あしてちんちの

おつたけり 経路

見のちんちりかちんちんま 其鳥

ちんちんまのちんちり 良驢

ちんちんまのちんちり 梅骨

ちんちんまのちんちり 子子

ちんちんまのちんちり 志更

ちんちんまのちんちり 江

ちんちんまのちんちり 室雨

ちんちんまのちんちり 兩丹

ちんちんまのちんちり 既左

ちんちんまのちんちり 中津

ちんちんまのちんちり 其嵐

水うけりて

かちり 風骨

ちんちんまのちんちり

ちんちんまのちんちり

候りてハキ

親の筆をかぬ 外海

ちんちんまのちんちり

ちんちんまのちんちり

ちんちんまのちんちり

ちんちんまのちんちり

ちんちんまのちんちり

ちんちんまのちんちり

ちんちんまのちんちり

ちんちんまのちんちり

ちんちんまのちんちり

ちんちんまのちんちり

ちんちんまのちんちり

ちんちんまのちんちり

ちんちんまのちんちり

ちんちんまのちんちり

ちんちんまのちんちり

ちんちんまのちんちり

ちんちんまのちんちり

ちんちんまのちんちり

其鳥

良驢

梅骨

子子

志更

江

室雨

兩丹

既左

中津

其嵐

其嵐

錦の歌を

かきぬや也 二道

上後竹の移り

サカも新花に 涼圃

清のうらや

ウレハ ウレハ 打

一 ウレハ 一 ウレハ

れり ウレハ 外て 兼頼

強 ウレハ 一 ウレハ の

も ウレハ 一 ウレハ 出真

水 ウレハ 一 ウレハ 乾り

推 ウレハ 一 ウレハ 草徒

小 ウレハ 一 ウレハ 山

も ウレハ 一 ウレハ 山

き ウレハ 一 ウレハ 山

久 ウレハ 一 ウレハ 山

下 ウレハ 一 ウレハ 山

此 ウレハ 一 ウレハ 山

江 ウレハ 一 ウレハ 山

白 ウレハ 一 ウレハ 山

打 ウレハ 一 ウレハ 山

也 ウレハ 一 ウレハ 山

山 ウレハ 一 ウレハ 山

木槿の歌

口 ウレハ 一 ウレハ

七 ウレハ 一 ウレハ

小 ウレハ 一 ウレハ

お ウレハ 一 ウレハ

子 ウレハ 一 ウレハ

ま ウレハ 一 ウレハ

子 ウレハ 一 ウレハ

年 ウレハ 一 ウレハ

春 ウレハ 一 ウレハ

健

錦 ウレハ 一 ウレハ 山

錦 ウレハ 一 ウレハ 山

錦 ウレハ 一 ウレハ 山

錦 ウレハ 一 ウレハ 山

錦 ウレハ 一 ウレハ 山

錦 ウレハ 一 ウレハ 山

錦 ウレハ 一 ウレハ 山

錦 ウレハ 一 ウレハ 山

錦 ウレハ 一 ウレハ 山

錦 ウレハ 一 ウレハ 山

錦 ウレハ 一 ウレハ 山

少〜い〜い

橋 洲

手〜し〜月〜

向〜し〜い〜

齒〜し〜い〜

令〜し〜い〜

妹〜し〜い〜

す〜し〜い〜

朝〜し〜い〜

鳥〜し〜い〜

ま〜し〜い〜

橋 嘆〜し〜い〜

松花

む〜し〜い〜

梅二

橋

新〜し〜い〜

内子

土〜し〜い〜

雷河

つ〜し〜い〜

子燈

黄〜し〜い〜

舊里

一〜し〜い〜

奇洞

う〜し〜い〜

二籠

洗〜し〜い〜

雪丸

田〜し〜い〜

呂天

思〜し〜い〜

和山

何〜し〜い〜

五千

尾六

祥のり〜

〜い〜い 洲

其鳥 伊藤大洲客

其鳥 信華梅堂金

吐洲 豊後国折加島

吐洲 美作津山

松月 伊藤大洲客

招月 撰列兵衛岡

批席 南溟更

維鳩 鬼石更

字の 柳内更

神〜し〜い〜 吾友

念〜し〜い〜 仙世

田〜し〜い〜 批席

茶〜し〜い〜 霞越

水〜し〜い〜 光亨

陰〜し〜い〜 左乙

向〜し〜い〜 奇洞

あ〜し〜い〜 糖亭

葉〜し〜い〜 仙世

あ〜し〜い〜 碧馬

葉〜し〜い〜 吉廟

春 歳旦

三春 春のつらさを春のちを春の 徳田雨時 初哉

つらさを春のちを春の 霞撫

つらさを春のちを春の 起蝶

五春 玉川の砂利を春にして春の 國村

花春 春のちを春のちを春の 後永

春のちを春のちを春の 嵐

庵春 春のちを春のちを春の 紀及

春のちを春のちを春の 壽洞

初春 春のちを春のちを春の 枝冬

元日 春のちを春のちを春の 奇洞

春のつらさを春のちを春の

初吹雪 春のつらさを春のちを春の

上も 春のつらさを春のちを春の

強倉 春のつらさを春のちを春の

笠 春のつらさを春のちを春の

春のつらさを春のちを春の

春のつらさを春のちを春の

春のつらさを春のちを春の

春のつらさを春のちを春の

春のつらさを春のちを春の

春のつらさを春のちを春の

春のつらさを春のちを春の

何某 春のつらさを春のちを春の

春のつらさを春のちを春の

春のつらさを春のちを春の

初空 春のつらさを春のちを春の 英月

初日 春のつらさを春のちを春の 馬鹿

初霞 春のつらさを春のちを春の 波亭

初鳥 春のつらさを春のちを春の 可憐

養積 春のつらさを春のちを春の 終始

大著 春のつらさを春のちを春の 嘴力

春 春のつらさを春のちを春の 雲

春 春のつらさを春のちを春の 井堂

徳良 春のつらさを春のちを春の 千子

論初 春のつらさを春のちを春の 可憐

春 乾 坤

睦月 そいしと睦月もつりとり 升堂

正月 おのころちかちか 感堂

三光 左宮まはらう 車々 三光

三光 三光 奇淵

小正月 びんがふれと 本堂

穀入 やふり 里野

絲寒 なほ先の 鹿門

春寒 むさやあねの 何系

河返 おのあまて 枕桐

春霜 しもの 中免

思ひの...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

春雪 しもの 月化

町 町の 御手

春 春の 千化

霞 山々の 茶筵

... ... 荷也

... ... 貴耳

... ... 枕桐

... ... 松老

... ... 吐向

... ... 松史

... ... 露月

ついで

ふりかへてみる
夢さすまゝ

り
雙車

夢さすまゝ
ついで

夢さすまゝ
空阿

夢さすまゝ
千子

夢さすまゝ
馬雪

夢さすまゝ
奇洞

夢さすまゝ
奇山

夢さすまゝ
可照

夢さすまゝ
其鳥

夢さすまゝ
半島

夢さすまゝ
大坂

夢さすまゝ
大坂

夢さすまゝ
大坂

海王宮門の二子
を封じて橋上坂
下付

山本殿よりハナリ
やうりれえ海戸
うさ
さむ

初夢中は
浄圃

怪しいハ
紀及

夢さすまゝ
月化

ついで
松栞

ついで
里野

ついで
五竹

ついで
牛右

ついで
一方

ついで
光亨

ついで
氷水

ついで
泉流

古人もよみあり
 くりて世の中を
 ついでに秋の山を
 入てくまきか
 ものゝもりのおひ
 降ちぬまのり
 せん
 昔風

稚子。なまき草の影のうしろをさうな 付は 蛙音

ふらふらしてはまはらけ 付は 嵐音

こゝろのまの影のうしろ 付は 月影

雀巢。おのろふまの影のうしろ 付は 南音

鳥巢。まの影のうしろ 付は 後帆

鳥影。おのろふまの影のうしろ 付は 萬和

春鳥。口の影のうしろ 付は 世法

おのろふまの影のうしろ 付は 奇法

おのろふまの影のうしろ 付は 岩林

火の中へおのろふまの影のうしろ 付は 蕉里

くちららり上へおのろふまの影のうしろ 付は 沙里

花 十五

浮鯛 藤あけのり

浮鯛 藤あけのり

喚鳥。おのろふまの影のうしろ 付は 尺女

まはらけの影のうしろ 付は 雙鼻

田鼠。おのろふまの影のうしろ 付は 嵐音

白魚。おのろふまの影のうしろ 付は 外海

おのろふまの影のうしろ 付は 奇法

浮鯛。おのろふまの影のうしろ 付は 至條

田螺。おのろふまの影のうしろ 付は 担戴

おのろふまの影のうしろ 付は 月化

おのろふまの影のうしろ 付は 奇洞

鯨。おのろふまの影のうしろ 付は 静庵

おのろふまの影のうしろ 付は 屋柳

石龍いり。



子健

蛙

祀

蛙子

西の山にたつたまはるるて好の蝶

き井

玉皮

花のやうな紙に巻いてちりちり

鳥皮

眠るておひらうやうの石は止

もろ

城文

花のうねハ蝶のふももももも

まの

義臣の介や月夜のかうらうら

の作

萬羽

羊の毛を油やききききききき

苗蓮

砂のうらや蛙しつあつたま

板岸

おゆをききききききききき

方馬

花のやうな小夜うけきききき

蕉堂

うらうらのやうな水内水

後六

蛇のまじり口和さるるま

狸馬

箱十五

春神釋衣食

菰粥 とりれり肉りーと舟のほろり

春。

空蛙

初午 おあれりききお午のひな丸

大坂

板敷

彼岸。 強とくぬりちり信の入り

ちり

戦枝

花のやうな境のわらひんか

ちり

雪丸

花のうらや蛙しつあつたま

ちり

一貫

止蓮のふらうらもももももも

ちり

南毒

涅槃。 アの子のぬりちりききき

ちり

法園

祝汁 ぬのりちりちりちりちり

ちり

二鶴

海苔 のりちりちりちりちり

ちり

金菜

利系 とりれりちりちりちり

ちり

三千燈

金菜

三千灯更

四時川多き

すまゝさやなほ

せうくおのま

道子

あまの江

まきのかりやまをんじ

しんじんおむす

の柳一草

海もやうなう流し水浄の史

白鳥

流し水も建てるさあの方

赤秋

流し水乃たまふちやおの月

路大

すまゝさやなほのまゝ

何亦

納涼。流れ川掬ふ物も乃たまふ

諸言

月涼。月すまゝおのまりのまゝ

圭雨

お流し人まじりてなす灯流

吐河

白雨。ゆめうらのまゝおのめあ

二夜

ゆめの流しのまゝおのま

流圃

お流しうらまゝおのま

其言

うらまゝおのま

林言

十さ様やうりち

さしして様

様もやうし後

の猿とやう

このまゝハ

まゝ

子化

流水

うらまゝおのま

流圃

うらまゝおのま

うらまゝおのま

うらまゝおのま

うらまゝおのま

うらまゝおのま

うらまゝおのま

うらまゝおのま

うらまゝおのま

うらまゝおのま

二雨段

圓扇

楳子

Faint handwritten text at the top of the right page, possibly bleed-through from the reverse side.

扇 之由川の... 東前

任の... 林二

福はく... 中尾

之澤... 二節

難夏... 貴年

Very faint handwritten text in the middle section of the right page.

Handwritten text in the top section of the left page, including characters like 丹, 母, 丹, 丹, 丹.

夏植物

牡丹 是日... 日向 幡丸

日の... 覆六

... 有月

... 光亭

白牡丹... 息思

白牡丹... 抄里

... 瑞馬

... 二節

... 三津人

... 二鶴

回文

回らぬ月とや
くさくさの
お裁

北尚

至蝶

夜門

其如

半免

越丈

起蝶

奇河

都春

東朝

嬰棠

大群よゆわいてあやしのを

おしかなんかおぼへりの上

けしきかゝり一日よりの如

と採

見やうと思ひすゝぬや採のま

採採

採採のまの採やちしく白く採

屋業

何らけりくつあゝくつあゝ

相のかへりやうり採りうり鳥

採中のひかきまゝのりりりり

月もひもあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

くろくろくろあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

出裁

桂眉

吾風

起蝶

佳仙

千彩

鼎友

柳岸

奇河

起蝶

起蝶

口吟

すくぬし 神よ
うけしや 昔の扇暑
水鏡をけし
ふるさとの 昔の
りけり 灯をきし
たさぬ ちのむてまふ
なぬのしるこみ
ふぬぬ人れ 奇蹟

もはやめのおうり上りあふけり
薄花 しまくはの花おほいぬくし
深信 おりこのまや 草履のまき
石盡 石け補のちほれし けいも
船をたのむの 昔のまき
鬼灯花 鬼灯のむしんほれぬ
向真 日らほやけしむぬぬ
夏草 ひらぬりしむの子の
敷き巻 ちのむのしんかき
音馬 瑞馬
花六 井中
東湖 嘯月
六徳 道里
鳳心 寶真
早信

おきあえよ なる
是のちよほり 語
下 珍し
瓶うし 暑
大門の 閩ち
こさぬ 茶 洞
おきく 叙
おきの 叙
冷きよの 叙
おきく 叙
陰の 叙
おきく 叙

執手 ゆきぬし 燈ももて 雨の
ふれや ちのむの 舟
まむや ちのむの 舟
つりの ぬしめぬ 舟
村の ぬしめぬ 舟
おきの ぬしめぬ 舟
昔田 けりけり 舟
聖徳 けりけり 舟
百景 けりけり 舟
飛川 舟
お月 舟
お良 舟
具光 舟
音信 舟
木光 舟
北岸 舟
我れ 舟

暇を属のゆきぬ

ふと面をくく

強ひ子一羽

きんぐけく

おれもつのかい

もめくもあつて信

つたうひ代を

ほくく水音

種念のほくまふ

のぬ世もつり

信をくく

くく物

夏生類

子親。ぬりりおはまはもれは杜宇

はらうゆくはせし

物まの接は接をすり

ふくは居て飯をえんり

まく人のうて

子親ゆりも

春まの草冷よ人のあま

杜宇外の用

一あつすれは

物のおのほめ

祥永

轉友

春健

風の

村甲

五訓

枕里

雲白

雨水

柳序

厚くゆりきり

あつた志を

芒のあえて

川のきき

右一羽

木老 霞中更

木老 打隣あま

布穀

火をくぬ清を

あつたあま

水の中

我老り我

木のあま

吐海

雪出

宮鏡

柳良

草意

はらひつゝ

夏神祇衣食

振はりて

更衣 名くして曲より梨の枝

茶迄

やせり身は

白重 つやくと後よりや白重

階了

尚の存り

春慶 述し氣味久せむ

石若

杜も

昔のころつけて持る

草

月

和歌 くらきちかき

一貫

は

新茶 くらきちかき

嘉永

高の

柏餅 とり月の

後

後

柏餅 とり月の

後

人の

柏餅 とり月の

東

つ

藤布 ころり

里

あ

過花 くらきちかき

押了

昔の

厚の

号天

花

位

晴月

思

位

市礼

世

位

紀及

世

心

可石

於

心

徳水

右

第

を

中

第

を

は

第

を

杜

第

を

杜

第

を

杜

第

を

